私見

若山峻也

私は死刑制度に賛成である。理由としては、まず死刑の抑止力、執行の効果がある程度認められると考えるからである。死刑という制度の存在は、そのインパクトから正常な一般人に対する抑止力としては十分な効力を発揮すると思われる。万が一、死を恐れない、逆に死を望んでまで凶悪犯罪を起こすような人物が現れた場合にも死刑によって再犯防止の可能性を低コストで永久に排除することができるわけだから十分な効果があるといえるだろう。また国民感情として、現在の日本においては死刑存置を肯定しているわけだから死刑制度の廃止はまだ社会的現状にそぐったものではないと思う。

　死刑制度のデメリットである冤罪の可能性についてもこれだけで死刑は直ちに廃止すべきであるという決定的な根拠にはならない。誤判が許されるものではないのは死刑に限られたことではなく、その判断の取り返しのつかないことに変わりない。たとえ死刑の代わりに終身刑を採用したところで冤罪被害者の精神的苦痛は計り知れないものであることは明らかである。こういった理由から、私は死刑制度の存置に賛成である。